

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	物理療法実技	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実技		
教科書/教材	教科書（柔道整復理論編 一般社団法人 全国柔道整復学校協会 監修一）に準拠する。				
担当教員情報					
担当教員	後藤 晃弘	実務経験の有無・職種	有・柔道整復師		
学習目的					
<p>物理療法の定義は、物理的エネルギーを利用して、生体の神経生理学的反応や化学的反応を引き起こすことにより、損傷部の治癒促進や疼痛抑制及び神経筋機能の賦活を促す治療法とされ、徒手的には与えられない物理的エネルギーによる刺激を、生体を与えることができることが最大の特徴である。柔道整復師の業務である後療法の中の物理療法の生体への反応を理解し、患者さんへの実施の仕方を習得することができる。また、禁忌など危険性を理解できるようになることがねらいである。</p>					
到達目標					
<p>物理療法の理解や探求する力を身につけるために、各物理療法の用いた際の生体への反応の法則を理解すること、温熱療法や寒冷療法、光線療法、牽引療法、電気療法、観血的圧迫法など各種物理療法の毛細血管や浸透圧、神経系、筋肉に対しての生理学的作用を理解すること、各種物理療法の実施した際の効果並びに、どのような疾患に対して効果があるのかを理解すること、一般的な禁忌や各種物理療法だけの禁忌（特異的禁忌）を理解することを到達目標とする。</p>					
教育方法等					
授業概要	この物理療法とは柔道整復師の行う後療法の中に含まれ、物理療法の生体への反応や効果を理解し、患者さんへ実践できる学問である。物理療法についての基礎知識から応用知識までを学び、基本的な患部への実践と応用的な実践といった技術を習得する。				
注意点	<p>学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
平常点	0%				
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	電気療法(3)	マクロショックとマイクロショックを理解する。			
2回	電気療法(4)	電気療法の使用の仕方を習得する。			
3回	温熱療法(1)	温熱療法の表面過熱と深部加熱の違いについて理解する。			
4回	温熱療法(2)	温熱療法の生理学的作用を理解する。			
5回	ホットバック療法	ホットバック療法の利点と欠点、使用方法を理解する。			
6回	パラフィン浴療法	パラフィン浴療法の利点と欠点、使用方法を理解する。			
7回	超音波療法(1)	超音波療法のBNR、ERA、キャビテーションを理解する。			
8回	振り返り(1)	1回～7回までの振り返り			
9回	超音波療法(2)	超音波療法の生理学的作用を理解する。			
10回	超音波療法(3)	超音波療法のパルスや周波数の設定について習得する。			
11回	超音波療法(4)	超音波療法の効果と禁忌、電気療法との併用について習得する。			
12回	極超短波療法(1)	極超短波療法の生理学的作用を理解する。			
13回	極超短波療法(2)	極超短波療法の原理について理解する。			
14回	極超短波療法(3)	極超短波療法の使用方法を習得する。			
15回	振り返り(2)	9回～14回までの振り返り			